

2022年度外国人留学生のオリエンテーションと進路懇談会 — 「入口」と「出口」における支援 —

閔 琬新

東北大学大学院教育学研究科

日本政府は2008年に、「留学生30万人計画」の政策を打ち出した。それ以降、日本に留学する外国人留学生（以下、留学生という）の人数が大幅に増加してきた。「留学生30万人計画」達成の現在、東北大学教育学部と教育学研究科に在籍する留学生の人数は60人を超えている。そこで、学生の留学生生活をより良くサポートするため、国際交流支援室は新入留学生のためのオリエンテーション及び留学生に向けた進路相談についての懇談会を開催した。

1. 新入留学生のためのオリエンテーション

国際交流支援室は2020年10月から教育学部と教育学研究科の新入留学生を対象とした、オリエンテーションを年2回開催している。2022年度は4月18日と10月7日にオンライン形式で開催し、国際交流支援室の教員5名と在学中の留学生及び新入留学生17名が参加した。

ここでは教員から、新入留学生への挨拶と教育学部・教育学研究科及び東北大学全学教育が実施している留学生が利用できる支援プログラムに関する紹介が行われた。次に、留学生活をする上で直面する問題を取り上げ、解決方法について助言をした。また、オリエンテーションでは、留学生同士が助け合うコミュニティの形成を念頭に、在学中の留学生と新入留学生同士の交流のセッションを設けた。



春学期のオリエンテーション (2022.04.18)



秋学期のオリエンテーション(2022. 10. 07)

2. 元留学生が進路経験を共有する懇談会

新入留学生へのオリエンテーション以外に、国際交流支援室は SNS を活用した在学中の留学生に向けた留学生活に関する相談体制を築いてきた。留学生の相談に対応するなかで、彼（彼女）らは就職活動に関して、「自分の日本語が通じるかどうか」、「職場で良い人間関係を築けるかどうか」、「希望する仕事に就けるかどうか」などの不安を抱えていることに気づいた。そこで、先端教育研究実践センターの運営委員会へ提案して許可をいただき、卒業・修了した元留学生たちが在学中の留学生と進路経験を共有する懇談会を 10 月に開催した。

今回の懇談会では、教育学研究科を修了した 3 名の元留学生を講演者として招き、就職活動前の準備段階から入社後の一連のプロセスについて、各段階での困難を乗り越えるための対策やアドバイスをシェアしていただいた。講演の後に質疑応答も行なった。

全学教育においても留学生に向けた説明会及び就職活動の支援プログラムは実施されている。それらのプログラムと比べると、教育学研究科での懇談会は以下のメリットが挙げられる：①少人数で深い討論ができる；②文系留学生としての共通点が多く、スムーズなコミュニケーションができる；③懇談会を通じた留学生のネットワーク形成が期待される。今後もこのような懇談会を定期的で開催してほしいという留学生の声もあった。また、今回の懇談会から 2 つの注意点がみつかった：①在学中の留学生は就職経験が無いため、質問を出せないことが多い。②元留学生はどのように自分の就職経験をシェアした方が良いかわからない場合がある。そのため、教員の助力（質問を事前に用意して、半構造化インタビューの形で行うなど）が不可欠だと思われる。今回は、就職活動を終えたばかりの在学学生に依頼し、講演者への質問を用意していただいた。



オンライン懇談会（2022. 10. 30）

参加学生の感想：

W さん：「今回行われたキャリア支援に関する懇親会からいろいろ勉強になりました。特に私のような日本に就職したい人にとって、日本に就職した先輩から貴重な経験を語っていただきありがたいです。懇談会により、就職活動の準備、方法、またどのように自分の目標を設定するのかにも示唆を得た。」

D さん：「帰国するか日本で就職するか迷っているところ、このようなイベントがあって良かったです。母国の就職活動に対して、日本での就職活動は詳しくなかったですが、イベントを通して、日本の就職活動のスケジュールや、先輩の経験などについて色々知ることができて、自分の可能性が広がったと感じています。」